

戸田市未来の学び応援プロジェクト (ふるさと納税を活用したクラウドファンディング) について

学校発の提案を、**応援**しませんか？

未来の学びの実現に向けたクラウドファンディングについて

「戸田市から日本の教育を変える」をコンセプトに、これまでの教育・学校の「当たり前」を問い直す、学校主体の夢のある学校改革や教育委員会による産官学民連携の下での教育改革を通じた未来の学びの実現に向け、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングを実施。確保した資金は、一般の寄付金と併せて、戸田市未来の学び応援基金へ積立て。

実施期間

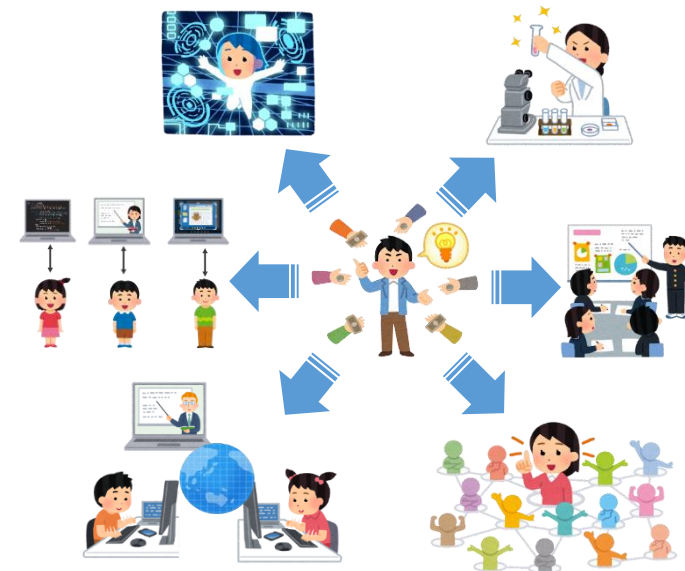
令和4年10月から令和5年3月まで

対象テーマ

PBL（課題解決型学習）、部活動の地域移行、デジタルの活用、自然体験、インクルーシブ教育 など

寄付者への還元

ホームページ等を通じて事業成果報告（高額寄付者は別途検討）



脱・自前主義

脱・教師主導

脱・正解主義

脱・予定調和

脱・3K
(経験と勘と気合い)

戸田市未来の学び応援基金条例について

- 「**社会に開かれた教育課程**」の実現が求められる中、本市においては、これまでも「**変化する社会の動きを教室に取り入れる**」との考えのもと、ICTを文房具として活用した子供たち一人ひとりのニーズに応じた学びなどに、**他の自治体に先駆けて**取り組んできた。
- 今後、**学校現場からのニーズ**を踏まえ、こうした**先進的な取組をより一層後押しし**、「**教育日本一**」の実現に向けた**更なる一歩**を踏み出すため、以下の取組を実施。



- 令和4年度において**ふるさと納税を活用したクラウドファンディング等を実施し**、**学校主体の「夢のある学校改革」の提案**や**教育委員会による産官学民との連携の下での教育改革**に対する経費を寄附額から支援。
- 並行して、長期的にそうした経費を確保し、**年度を超えて機動的に運用**できるようにするため、「**戸田市未来の学び応援基金条例案**」を令和4年9月議会に提出。
(※基金の原資には、9月定例会時点では、令和2年度に実施したクラウドファンディングで確保した資金の一部を充当。)

<今後のスケジュール（今後変更が有り得る。）>

令和4年	8月	基金条例案提出（9月定例会）	→	9月22日	基金条例案可決・成立
	10月	クラウドファンディング開始			
令和5年	3月	クラウドファンディング終了			
	6月	提案内容の事業化			

※なお、本基金は、**公費負担の転嫁の趣旨で設置するものではない。**

未来の学びの実現に向けた5つの要件

提案は、次の要件のうち、**全部又は一部**を満たし、これまでの教育・学校の「**当たり前**」を問い直す**全国的なモデル**となるもの（戸田市未来の学び応援基金条例第2条に規定）

脱・正解主義

正解を探し求める学習から、正解のない課題に取り組む学習や主体的に課題を設定する学習へ転換し、教科等横断的な学び等を実現すること

1

脱・自前主義

学校が全ての教育活動を行うのではなく、産官学民や地域の資源を取り入れながら、社会に開かれた教育課程を真に実現する、持続可能な教育及び学校を目指すこと

2

脱・予定調和

教師により計画された学習に子ども達に取り組むのみならず、想定外の学びや挑戦による失敗を通じたワクワク感や深い学びを達成するものであること

3

脱・教師主導

教師が主導する授業や全ての子ども達が一斉に同じ内容を学ぶ授業から、子どもが主導する学びや個別最適な学びに転換するとともに、子ども同士の、又は子どもと教師の対話によるフィードバックを行うことを通じて、子どもも教師も協働して学び続ける学校を真に実現すること

4

脱・経験と勘と気合い

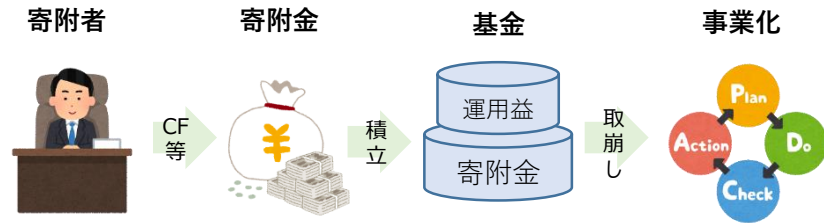
教師の経験、勘及び気合い（3K）のみによる指導から脱し、暗黙知の共有化及び形式知への転換並びに学習状況の可視化等を通じて、客観的な根拠を参照した政策及び実践を目指すこと。

5

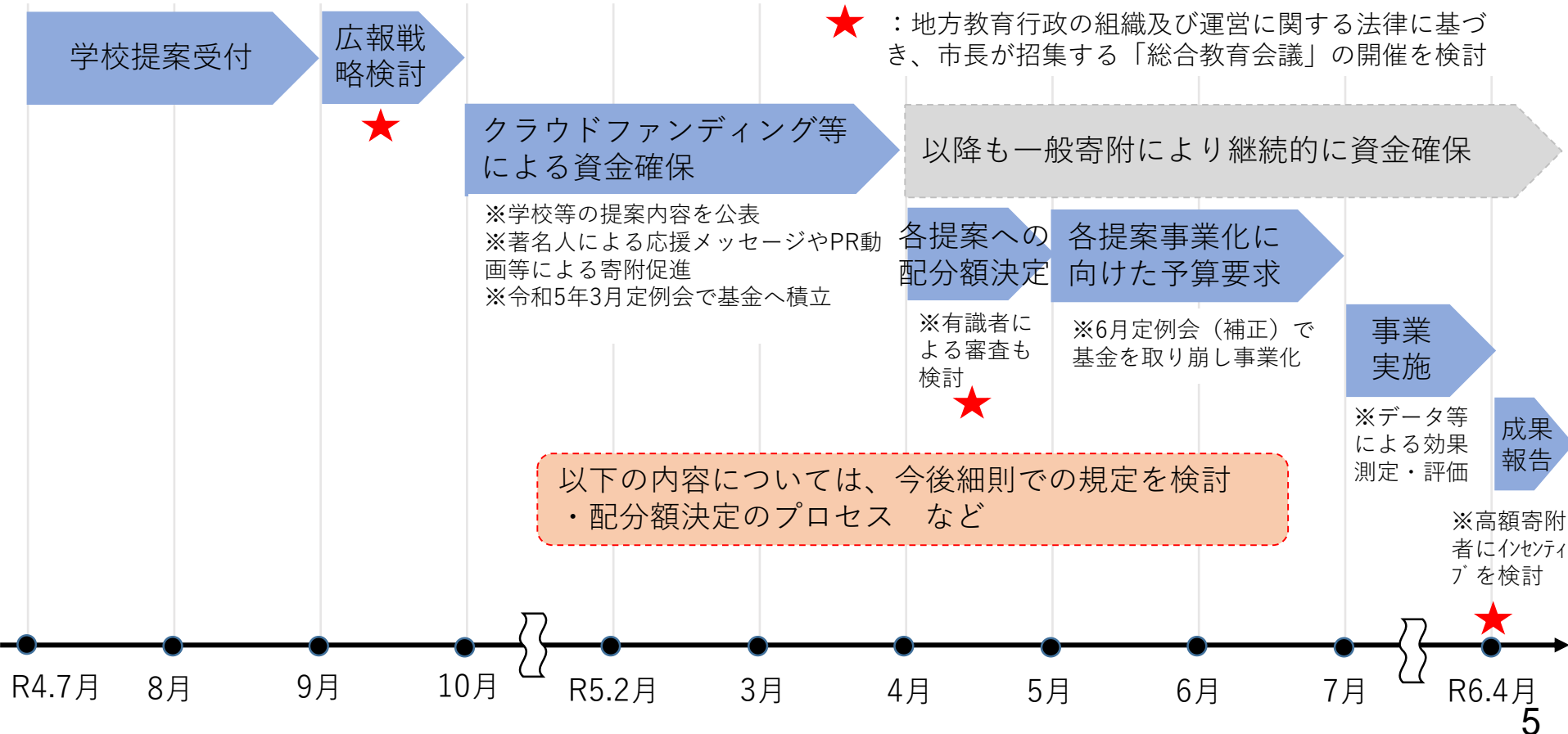
戸田市未来の学び応援基金の活用について

設置目的

本市の学校を日本の教育改革のモデルとするという趣旨に基づき、校長発の夢のある学校改革や教育委員会による産官学民連携の下での教育改革を通じた未来の学びの実現に要する経費を寄附等により確保し、年度を超えて機動的に運用



スケジュール (現時点での想定であり、今後変更が有り得る)



学校発の提案を応援しませんか！～未来の学び応援プロジェクト～

寄附方法

▼詳細はこちら



ふるさとチョイス（ふるさと納税サイト）を通じての寄附

クレカ決済

VISA、MASTER、JCBをはじめ5種類のクレジットカードに対応



キャッシュ決済サービス

d払い、auPAY、楽天ペイなどの決済サービスに対応



Pay-easy支払

寄附申し込み後にメールで通知されるURLで案内される番号によりATMで支払

コンビニ支払

コンビニエンスストアのレジにて支払



※ローソン、ファミリーマートなど

▼詳細はこちら



戸田市へ直接寄附

ステップ1

寄附の意向を電話やメールで教育政策室へ御連絡



ステップ2

寄附申出書の記載内容の確認(教育政策室で作成しメールにてファイルを送付)



ステップ3

戸田市から納付書を送付



ステップ4

納付書を用いて寄附



※埼玉りそな、りそな、みずほ、武蔵野銀行などの指定金融機関

学校発の提案を応援しませんか！～未来の学び応援プロジェクト～

税控除について

個人寄附

地方公共団体に対する寄附金のうち、2,000円を超える部分について、**一定の限度額まで所得税と合わせて個人住民税の控除**を受けることが可能

所得税控除

その年に寄附した金額の合計額から2,000円を差し引いた額が、所得金額から控除
控除対象限度額は、地方公共団体以外に対する寄附金と合わせて、総所得金額等の40パーセント

住民税控除

個人住民税所得割額の20パーセントが上限。また、寄附金の控除対象限度額は、地方公共団体以外に対する寄附金と合わせて、その年の総所得金額等の30パーセント

手 続

確定申告又はワンストップ特例にもとづき手続

法人寄附

国や地方公共団体に対する寄附金は、**支払った全額を『損金』に算入**することが可能
※戸田市は『企業版ふるさと納税』は未実施



未来の学び応援プロジェクトを支援してください！

～「戸田市から日本の教育を変える」ガバメントクラウドファンディング挑戦中～



学校発の提案を、**応援**しませんか？

※イラストはイメージです。

目標金額

5,000,000円

受付期間

2023年3月31日(金)まで

ワクワクするような「夢のある学校改革」を応援してください！

決められた正解をひたすらに探し求める学び。教壇に向かって一列に並んだ机の配置。教師の経験と勘と気合いだけに頼った指導。こうした、これまでの学校・教育の「当たり前」を問い直し、ワクワクする未来の学びを実現するため、学校が動き出しました――

プロジェクト型の学びや部活動の地域移行、メタバース空間での創作活動、体験活動の推進、教職員の対話や意識改革、誰一人取り残されない学校づくり・・・ワクワクするような「夢のある学校改革」の提案が出てきています。こうした「思い」を実現することで、「教育日本一」の実現に向けた更なる一步を踏み出したい。

寄附金は、各提案を実現するための、アプリの開発や教材購入、研修等経費、人件費等の経費等に活用させていただきます。プロジェクトを指定して寄附する方法、全体的に寄附する方法のどちらでも可能です。

子供たちや学校の「やってみたい」を実現したい！ 戸田市の挑戦に、皆様のご支援をお願いいたします。

戸田市長 菅原 文仁



戸田市は県内1若い、活力に溢れた街です。子育て世帯が多いことから「教育日本一」を目標に掲げ、ICTの効果的な活用や、教育政策シンクタンクの設置など、先進的な取組を積極的に推進しています。未来の学び応援プロジェクトも、全国的なモデルとなる取組として大いに期待しています。

戸田市教育委員会 教育長 戸ヶ崎 勤



戸田市では、「変化する社会の動きを教室に取り入れる」との考えで、様々な教育改革の取組を推進しています。今回のプロジェクトでは、子供たちや学校の「やってみたい」という夢を応援し、これまでの教育の「当たり前」に一石を投じる、ワクワクする未来の学びを皆様と一緒に創り上げたいと考えています。是非、皆様のご支援をお願いいたします。

お申込みはインターネットが便利！（ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディングへ）

URL

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/1998>



※このプロジェクトへの寄附は、ふるさと納税対象です。自己負担2,000円で地域を応援できるふるさと納税の詳細は裏面へ

手順① 戸田市のプロジェクトページにアクセス

右記URL（又はQRコード）より
戸田市のプロジェクトページにアクセス



URL <https://www.furusato-tax.jp/gcf/1998>

手順② お申込み手続きを行う

ふるさと納税で応援

ボタンを選択し、寄附金額入力ページへ移動。寄附金額を入力後、ページに従い入力を進める。

手順③ 決済を完了する

ご利用可能な決済方法は右記の通りです。

ご利用可能な決済方法

クレジットカード払い (GMO)/Amazon Pay/d払い/au PAY/楽天ペイ/メルペイ/あと払い (ペイディ) /PayPal/auかんたん決済/au WALLETT/ソフトバンクまとめて支払い/ネットバンク支払い (ウェルネット)/コンビニ支払い (ウェルネット)/ペイジー支払い (ウェルネット)/d払いミニアプリ

手順④ 寄附完了

後日、受領証明書をお受取りください。※寄附金控除手続きもお忘れなく！

寄附の手順やプロジェクトについてのお問い合わせはこちら！

埼玉県戸田市教育委員会 教育政策室 【TEL】 048-441-1800 【FAX】 048-443-9033

【URL】 <https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/373/kurafan1.html>

ガバメントクラウドファンディングとは？

使い道に共感しふるさと納税を利用して
行うクラウドファンディング

ガバメントクラウドファンディング（GCF）とは、ふるさとチョイスがふるさと納税制度を活用して行うクラウドファンディングです。

自治体が抱える問題解決のため、ふるさと納税の寄附金の「使い道」をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄附を募る仕組みです。



ふるさと納税とは？

「あなた」と「ふるさと」をつなぐ
ふるさと納税



ふるさと納税とは、ふるさとや応援したい自治体に寄附ができる制度のことです。手続きをすると、所得税や住民税の還付・控除が受けられます。

ふるさと納税は、自分の選んだ自治体に寄附を行うと、**控除上限内の2,000円を越える部分**について税金が控除されます。

未来の学びの実現に向けた夢のある提案

PBL

「新たな学びのカタチ」を子どもとともに
PBLで子供たちの「やってみたい！」を叶えたい

インクルーシブ教育

インクルーシブな学校をめざして！～全ての子供たちにとって居場所となる学校に～
全教育活動におけるインクルーシブ教育の推進

教職員の 対話・意識 改革

“大人”と“子供”が共に輝く学校づくり
“創る”ために“壊す”

体験活動

動物とふれあえる夢あふれる飼育小屋をつくろうプロジェクト
自然体験を核とした学校づくり

デジタル技術の活用

戸二小メタバース美術館「T2-MUSEUM」の設立
匠の技の可視化

部活動 改革

Toda T・F・Cで戸田市の小中学生に陸上競技の楽しさを

PBL（課題解決型学習）

「新たな学びのカタチ」を子どもとともに（戸田東小学校）

社会的リソースと子供の学びをつなぎ、学びのコントローラーを教師から子供に渡すプロジェクト

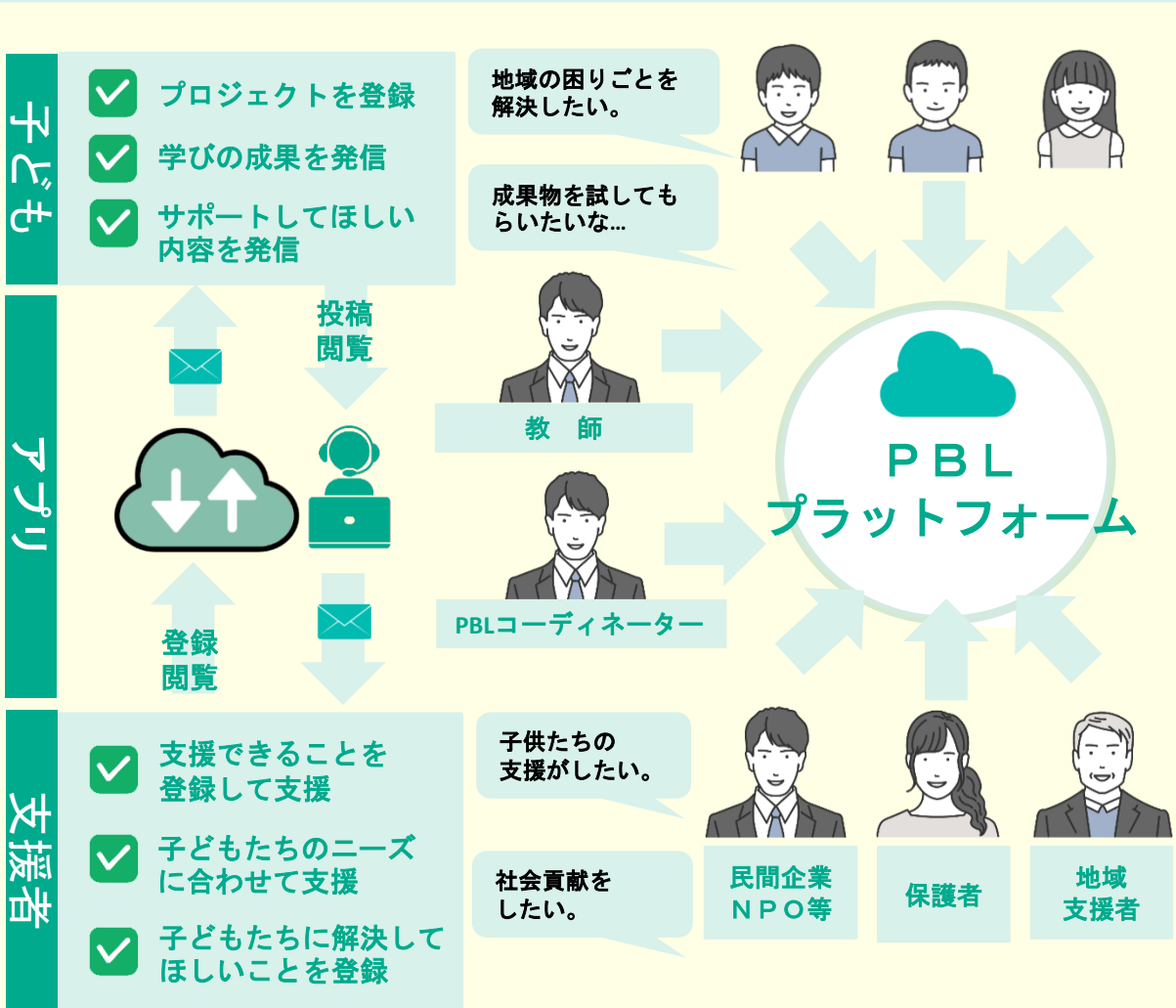
PBLで子供たちの「やってみたい！」を叶えたい（戸田第一小学校）

プロジェクト型の学習で、子供たちの「やってみたい！ 解決したい！」の実現を支援するプロジェクト

「新たな学びのカタチ」を子どもとともに

The future has already begun

社会的リソースと子どもの学びを「つなぐ」 子どもたちの学びのプラットフォームの構築 ～ 学びのコントローラーを教師から子どもへ ～



- Before**
- ▲ 学びの発信は、限られていた。【子ども】
 - ▲ 学びのイメージがつかみにくい。【子ども】
 - ▲ これまでどのようなプロジェクトがあったのか知りたい。【子ども・教師・支援者】
 - ▲ 地域や外部との連携は教師が調整することになり時間が足りない。【教師】
 - ▲ これまでのどのようなプロジェクトがあったかわからない。【支援者】
 - ▲ 子供たちがどのような学びを進めているのか分からない。【支援者】

Proposal

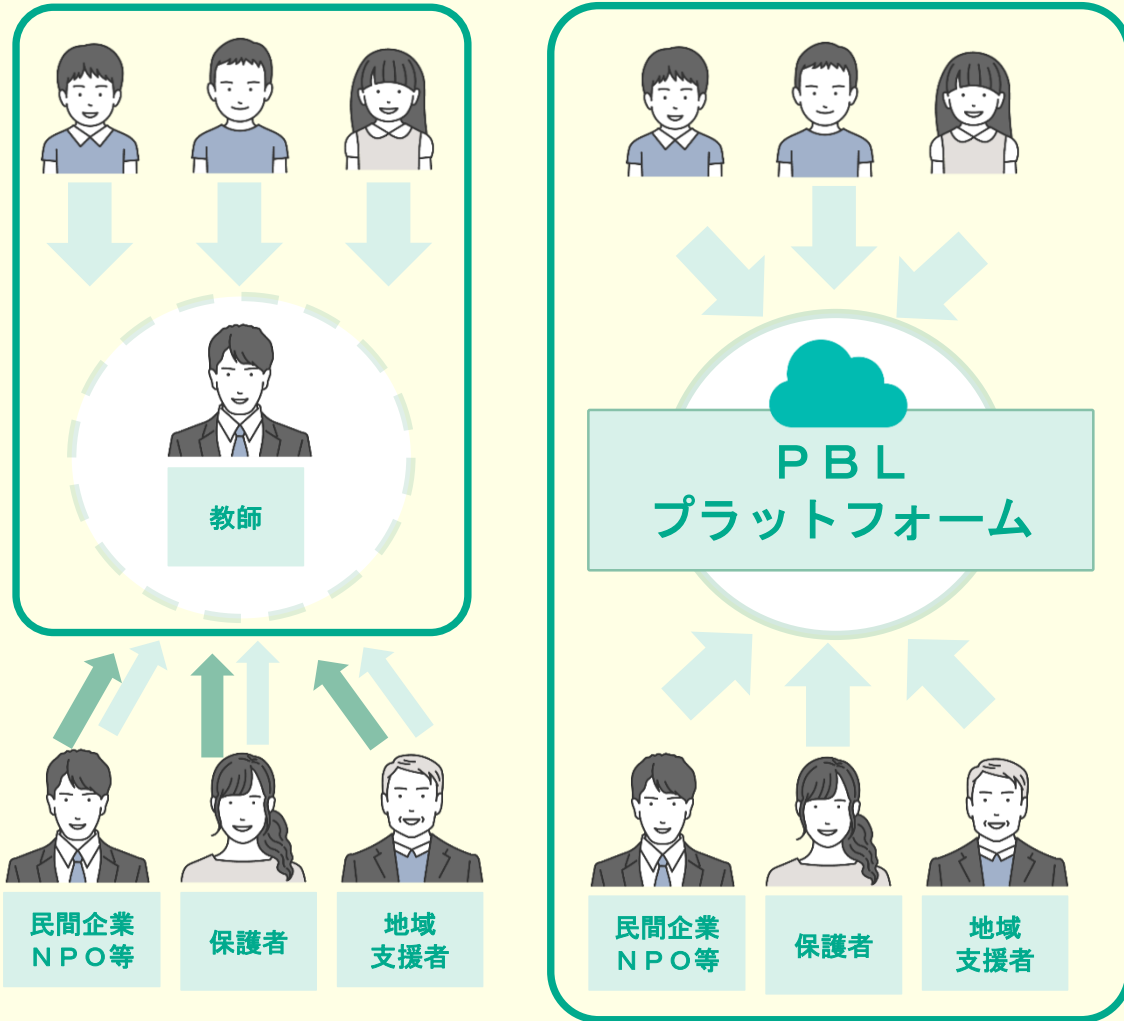
- 概要**
- 【アプリ概要】
子どもが学びを発信・子どもがサポートしてほしい内容を発信するプラットフォーム。保護者、地域の人、企業等が授業のサポートなど支援できること、子どもたちに解決してほしい課題などを登録。
子ども・支援者の登録内容によってマッチング、お知らせ機能有り。
- プロジェクト一覧（レスポンス機能「興味があります」⇒成果お知らせ）
 - プロジェクト成果（レスポンス機能「いいね」）
 - PBLサポート人材バンク（マッチング機能・お知らせ機能）
 - プロジェクト一緒にやりませんか？協働メンバー募集（掲示板機能）
 - しのめクラウドファンディング（ランニングコスト補填・成果物の提供 等）
 - 教師用PBL研修コンテンツページ・一般用PBL説明コンテンツページ

- 費用**
- PBLコーディネーター(500/年)
 - システム・アプリ構築(3,000/初期)
SE/システム管理(600/年)
(個人情報・著作権管理も含む)
 - 利用規約作成・審査(50/年)
- ※単位は千円

- Potential**
- Self-Organized-Learningで協働を促進
 - 戸田市版に発展
 - コラボレーションのチャンスが拡大
 - メタパスによるプレゼン大会の実施 等

(仮) ※S-Connect 戸田東小学校PBLプラットフォーム構築プロジェクト

これまで「つなぐ」役割は「教師」
「子ども」や「民間企業・地域・保護者」が主体的につながることができる仕組みが必要



これまでの状況・課題

子ども

- ▲学びのイメージがつかみにくい。
 - ・PBLとはどのような学びなのか。プロセスがわかりにくい。
- ▲これまでどのようなプロジェクトがあったのか知りたい。
 - ・これまでのプレゼン資料を参考にする。
- ▲学びの発信は、限られている。
 - ・探究のプロセスの中で、広く情報を発信する必要がある場合に、手段が限られる。
- ▲成果物を作成する費用を捻出しにくい。

教師

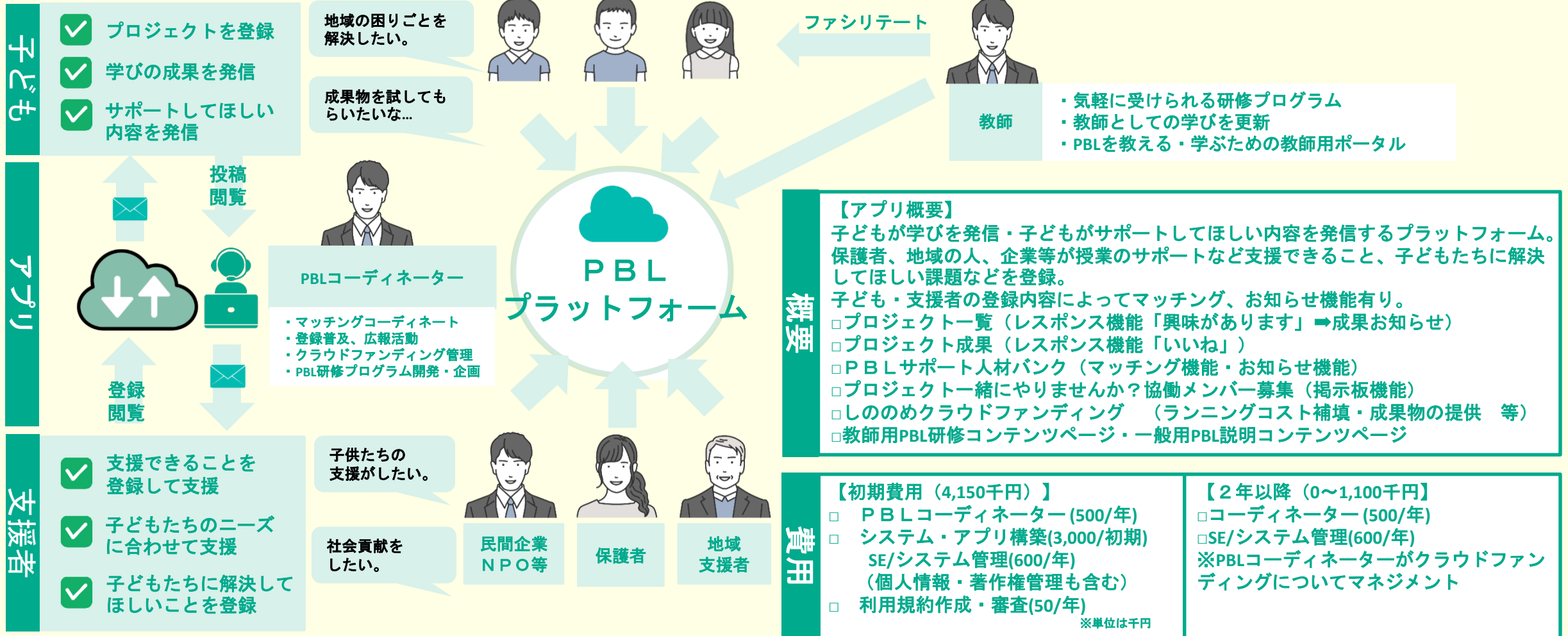
- ▲外部の人的・物的資源を活用しにくい状態である。
 - ・各担任が子どもたちのプロジェクト進行を把握している。
 - ・地域や外部との連携は教師が調整している。
 - ・地域・保護者の情報にアクセスする手段が限られている。
 - ・これまでどのような連携先とどのようなプロジェクトが行われてきたのかわかりにくい。
 - ・新たな連携先等、地域のニーズをリアルタイムで把握することは現状難しい。
 - ・同時に複数のプロジェクトが進行する調整を各担任で行っていく。
 - ・学習を進めるのが「教師主導」になってしまう。

地域・企業・保護者 等

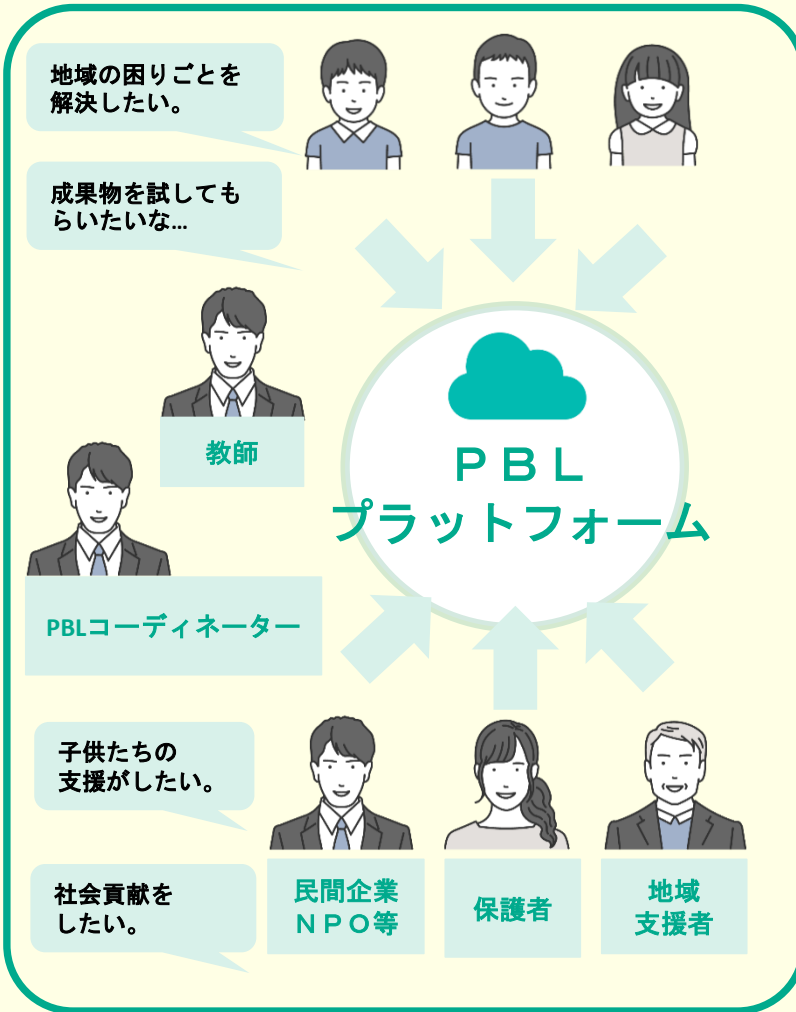
- ▲子供たちがどのような学びを進めているのか分からない。
 - ・できる範囲で子どもたちを支援したいと思っている人はたくさんいる。
 - ・協力をしたいが、どのようなことが求められているかわからない。
 - ・PBLがどんな学びのプロセスで、何をゴールにしているのかわからない。
 - ・子どもや学校と「連携・協働」していく利点がない。

(仮) ※S-Connect 戸田東小学校PBLプラットフォーム構築プロジェクト

学びを「つなぐ」 子ども・教師・地域を「つなぐ」



学びのコントローラーを教師から子どもへ



◎期待される効果・発展的展開

子ども

- ◎主体的に学びにアクセス。
- ◎対象が「ターゲット」から「ペルソナ」へ
- ◎自ら「つながる」ことができるようになり、新たな可能性への気づき
- ・PBLプラットフォームを通じて、プロジェクトに必要なメンバーを組織、進行管理

教師

- ◎子どもの一人ひとりの学びの充実に向けたファシリテートの充実
- ◎「学びの伴走者としての教師」の役割に専念
- ◎プロジェクトごとの費用に係る課題解決
- ◎異動に伴う「継続性」の課題解決
- ・子どもの学びとともに教師の学びもつながる場所に

地域・企業・保護者 等

- ◎子どもたちの「新たな学び」の促進に協力
- ◎学校への「支援」から「連携・協働」体制へ
- ◎学校と主体的に「つながる」ことが可能に。
- ◎地域・企業・保護者の専門的な知識や技術を学校教育（社会教育）に還元
- ◎子どもたちの「学び」を核とした「つながり」の創出
- ◎生涯学習の促進
- ・コラボレーションのチャンスの拡大。

Next Stage

▷戸田市版への展開

- ・学校版のプラットフォームの集合体として
- ・戸田市への拡大版として

▷メタバースによるプレゼン大会の実施

- ・オンラインイベント化
- ・プラットフォーム上からアクセス可能に
- ・児童生徒、関係協力者もアクセスしやすく、イベントをもとにした交流も可能に

「新たな学びのカタチ」を子どもとともに

The future has already begun

PBL（課題解決型学習）

「新たな学びのカタチ」を子どもとともに（戸田東小学校）

社会的リソースと子供の学びをつなぎ、学びのコントローラーを教師から子供に渡すプロジェクト

PBLで子供たちの「やってみたい！」を叶えたい（戸田第一小学校）

プロジェクト型の学習で、子供たちの「やってみたい！ 解決したい！」の実現を支援するプロジェクト

PROJECT BASED LEARNINGで

自分の頭で考える力と
他者と協力してやりぬく力を育てるために

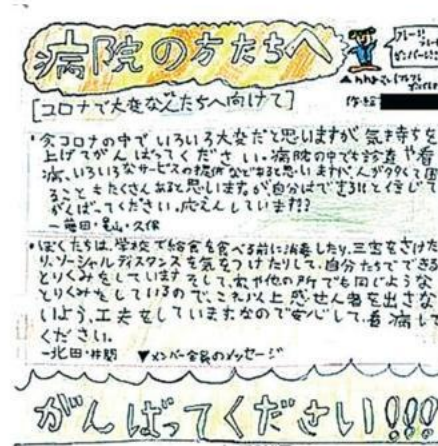
子供たちの「やってみたい！」を叶えたい

これまでのPBLでの取組

PBLは、子供たちが自ら課題を立て、その解決に向けて取り組むことを通して、これからの社会で必要となる資質・能力を高める探究的な学習です。



戸田市の花サクラソウを絶滅から救うために手作りのかるたを量産



コロナ禍で大変な人たちを励ますために、動画メッセージを作成し、プレゼント



食品ロスを減らすために米粉を使ったお菓子を作って販売

地域の方の協力をいただき、たくさんのプロジェクトが成功し、子供たちの生きる力を高めています。
一方で、**まだ実現していない子供たちの思い**があります。



PBLでもっせ

戸田市をPRするために、
戸田の魅力をまとめた本を
作ってみんなに見てもらい
たい！

3Dプリンター等を使っ
て作りたいものがある
から、企業と共同開発
をしたい！

やってみたい！
解決したい！

各学年およそ5万～10万円

食について考えるため
に戸田市産の野菜を
栽培して販売したいの
で戸田市の畑を借りたい！
栽培の仕方を教わり
たい！

環境問題について考えた
課題を解決するために、
企業と木製品の開発をし
たい！

自分の頭で考える力と
他者と協力してやりぬく力を育てるために

子供たちの「やってみたい！」を叶えたい



創造



協働



体験



御支援 お願いいたします

インクルーシブ教育

インクルーシブな学校をめざして！～全ての子供たちにとって居場所となる学校に～ (芦原小学校)

特別支援教育の専門家の支援を活用し、多様な子供たちも“ふるしきで包み込む”ような学校を目指すプロジェクト

全教育活動におけるインクルーシブ教育の推進 (戸田南小学校)

プロジェクトアドベンチャー (PA) により、安全安心な学級経営を目指すプロジェクト

インクルーシブな学校をめざして！

～全ての子供たちにとって居場所となる学校に～

学校には多様な子供たちがいます。
多様な子供たちも「ふろしきで包み込む」ような
「インクルーシブ（包括的）な学校」をめざします！

「オープンドア」
の心で！

共生社会で活躍で
きる人材を育てる

戸田市立芦原小学校

インクルーシブな学校をめざして！ ～全ての子どもたちにとって居場所となる学校に～

今学校で課題となっていることは・・・

- ・学校に登校することがつらい児童がいる。
- ・登校できても、教室で過ごすことができない児童がいる。
- ・教室で学習していると、途中でつらくなる児童がいる。

その原因や状況は様々です。

学習のペース
が早いから
分からない

興味がない
とやる気が
出ないよ

周囲の様子
が気になっ
て集中でき
ない

動きたくて
むずむずし
ちゃうんだ

不安な気持
ちになっ
ちゃうよ

気持ちの
コントロールが
苦手な
んだ

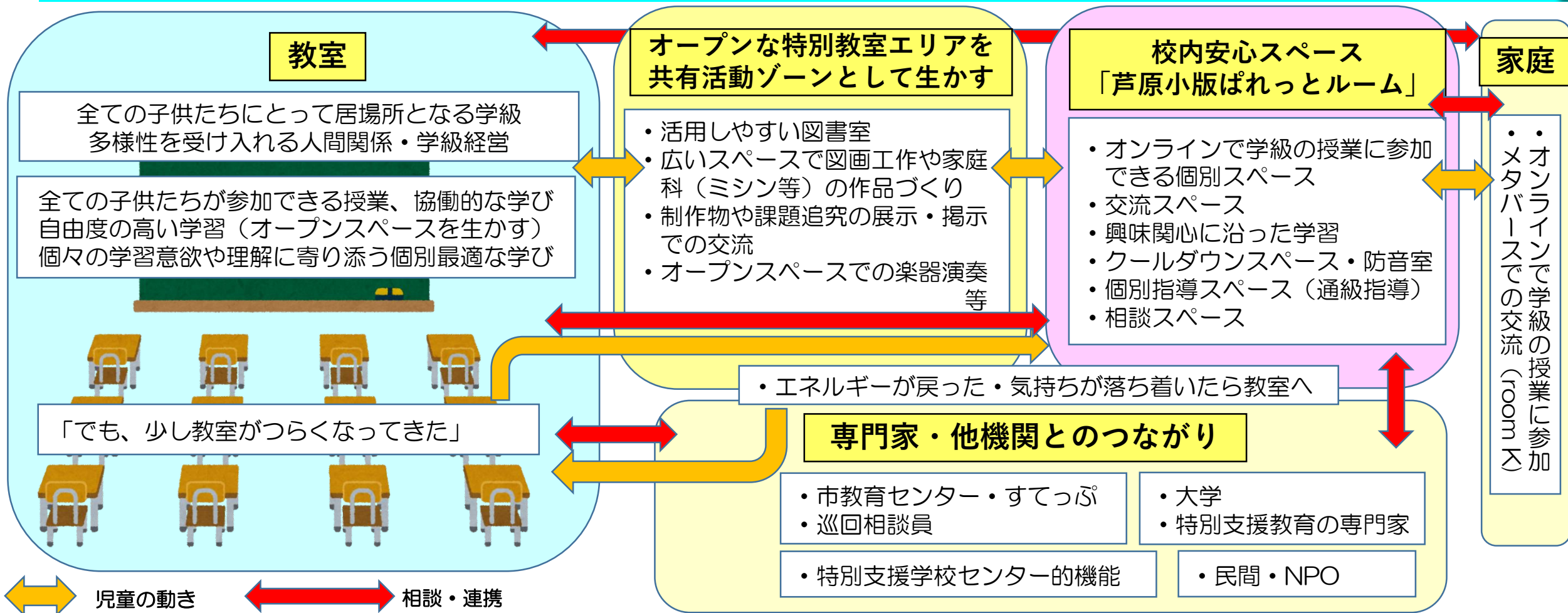
音や匂いが
気になっ
ちゃう



学校には多様な子どもたちがいます。全ての子どもにとって居場所となる学校、多様な子どもたちも「ふろしきで包み込む」ような「インクルーシブ（包括的）な学校」をめざします！

インクルーシブな学校をめざして！

「学校では教室でみんなが同一步調で同じ内容を学ぶことが基本」という「当たり前」を問い直す。



本校は廊下との境目のない教室・特別教室が多いので、出入りやすく、授業においても空間を活用した学習がしやすい。また、フリースペースを有効活用すれば、友達との距離感を意識せずに学習することができる。安心を求めて「ぱれっとルーム」を活用する児童も状況に応じて特別教室エリアを活用することで、教室とのゆるやかな交流を進めることができる。このように、校内安心スペースを活用しながら多様な子どもたちの多様なニーズに柔軟に対応することによって、不登校を未然に防ぐことができるケースが多くなっていくと考える。また、全ての子どもたちにとって学校が居心地のよい場所となる。

インクルーシブな学校を実現するために

- **新しい学びや学級経営、特別支援教育の専門家による研修**

教職員の研修を充実させることで、インクルーシブ教育について理解を深める。

「全ての子供たちにとって居場所となる学級経営について」

「特別支援教育の視点をもった学級経営・授業づくりとは」

「協働的な学びと個別最適な学びとは」 等

- **専門家等による巡回相談やアドバイザーの実施**

専門家による巡回相談や外部機関からの助言により、校内プロジェクトチームの教員が主体的にインクルーシブ教育を推進したり、よりよい「ぱれっとルーム」の運営を検討したりする体制をつくる。

「適切な個別の支援方法について」「教室の環境、学級経営の状況についての外部評価」

「ぱれっとルームの配置や構造化、運営状況についてのアドバイス」 等

- **「芦原小版ぱれっとルーム」の整備**

「各スペースの構造化のためのパーティションホワイトボード」「ドラムやピアノの演奏も可能な防音室」

「感覚統合トレーニングのためのバランスボールやトランポリン」 等

この実現のために
御支援をお願いします！

全ての子供たちの居場所となる学級づくり、児童を理解し安心スペースや家庭とのよりよい連携を進めるには教職員の研修と理解が不可欠である。また、教育的ニーズの把握や支援状況への客観的な助言には専門家や外部機関の力も必要である。多様性を受け入れ、全ての子供の居場所となる学校で学んだ子供たちは、これからの共生社会で活躍する人材となることができる。「オープンドア」の心をベースとしたインクルーシブな学校の実現を目指したい。

インクルーシブ教育

インクルーシブな学校をめざして！～全ての子供たちにとって居場所となる学校に～

(芦原小学校)

特別支援教育の専門家の支援を活用し、多様な子供たちも“ふろしきで包み込む”ような学校を目指すプロジェクト

全教育活動におけるインクルーシブ教育の推進 (戸田南小学校)

プロジェクトアドベンチャー (PA) により、安全安心な学級経営を目指すプロジェクト

全教育活動における インクルーシブ教育の推進

戸田市立戸田南小学校

校内研究主題

全教育活動におけるインクルーシブ教育のあり方
～安全・安心の学級経営を通して～



課題設定の理由

本校の児童の実態から特別な教育的支援を必要とする児童が通常学級にも多くいることが分かった。インクルーシブ教育を進めていくことは「多様な子供たちを誰一人取り残さない」ことにつながる。インクルーシブ教育の実現のベースは安全・安心の学級経営にある。

安全・安心の学級経営の実現に向けて3年間取り組んできたこと

- ・個別最適な学び（単元内自由進度学習、ホワイトボードミーティングなど）
- ・P B S（応用行動分析による手法）に基づいた積極的な行動支援
- ・UD（ユニバーサルデザイン）環境の整備
- ・アセスによる児童の実態把握
- ・プロジェクトアドベンチャーの実施



人と人との信頼関係の構築に効果は絶大



しかし、外部講師との連携が不可欠

プロジェクトアドベンチャー（P A）とは

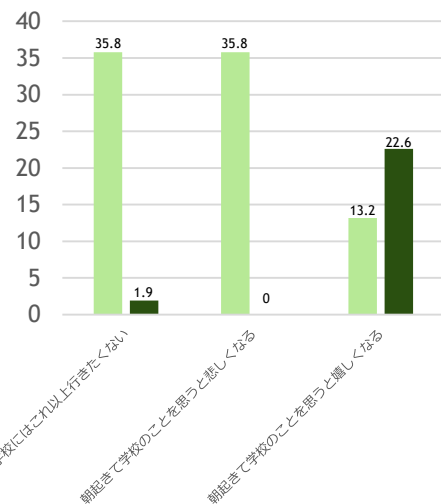
アメリカで開発された体験学習法をもとにした教育プログラム。アドベンチャーの持っている要素を通してチームワーク、自尊感情、他者理解などを体験して学ぶ。ハーバード大学等の研究でも効果が実証されており、最近ではN T T東日本などの企業の研修やJリーグのチームでも集団づくりの一方法として取り入れられている。具体的には、

- ・心の壁を低くするゲーム（アイスブレイキング）
- ・信頼感を高めるゲーム（トラスト）
- ・恥ずかしさを乗り越えるゲーム（ディインヒビタイザー）
- ・課題解決していくゲーム（イニシアティブ）



このような様々な種類の集団のゲームを教室や体育館、校庭で行い、仲間と楽しみながら信頼感を築き上げていく。

ハーバード大学2年間の調査（％）
1983 Dr.Marcus Lieberman Edward Devos



■プログラム実施前 ■プログラム実施後
平成15年 日本教育会全国大会 和歌山大会 提言(4)より

学校におけるP Aの価値



- ・学級における児童の心理的安全性が高まる。
（豊かなこころの育成、肯定的な自己概念の形成、自らチャレンジすることによる成長）
- ・コミュニケーションの多様性が広がる。
- ・外部講師からファシリテーション技能を学ぶことで場づくり、雰囲気づくりに関する教師の指導力の育成につながる。

今回行いたいこと

- ①プロジェクトアドベンチャー・ジャパンによるAdventure In The Classroom（ファシリテーター派遣型体験プログラム）の招聘（6年生児童対象 3時間）
- ②学校内でのアクティビティ実施を**持続可能なものにするための**教職員研修の実施

Adventure In The Classroom（ファシリテーター派遣型体験プログラム）にかかる費用

企画費：10万円
受講費：児童一人につき2,500円（×114人）
スタッフ交通費：
計385,000円+交通費
※学校としてPAを導入する場合の教職員研修は無料

Adventure In The Classroom



▶ 安全・安心の学級



まとめ

全教育活動におけるインクルーシブ教育を推進していくための一つの手法として、PAを導入したい。また今後持続可能性を高めるためにPAの教職員研修を実施したい。

そのために今回のクラウドファンディングにより、Adventure In The Classroom（ファシリテーター派遣型体験プログラム）の費用の捻出を期待する。

インクルーシブ教育の実現

共生社会へ 人権の保障

“大人”と“子供”が共に輝く学校づくり（美女木小学校）

教職員の対話や外部人材の活用により、教師と子供のワクワクを創出するプロジェクト

“創る”ために“壊す”（新曽小学校）

子供が主語になる学校づくりを目指し、教師のマインドセットに変化を促すプロジェクト

A photograph of two women in a classroom. The woman on the left is wearing a pink face mask and a dark blue jacket, looking towards the right. The woman on the right is wearing glasses, a pink face mask, a purple shirt, and a dark blue jacket, looking towards the left. They appear to be in a discussion. The background shows a classroom with a desk and a chair.

大人と子供が共に輝く学校づくり

- ・ 『対話』で創る教師の『ワクワク』
- ・ 子供に『多様な学びのチャンネル』を

私たちのありたい姿と実現に向けたチャレンジ



～ありたい学校の姿～

大人と子供が共に輝く学校へ
子供たちの学びを"支える"
・"広げる"2つの土壌で実現

学校大好き・先生大好き
自分も大好き！

学校に行ったら、
やりたいことありすぎて困っちゃう

チャレンジ②
『外部人材』で創る
子供の『わくわく』

～ありたい子供たちの姿～

学びに本気になれる
個がより輝ける子供たち
子供たちの学びを"広げる"土壌

この先生たちとだったら、
いろいろなことにチャレンジしてみたいな。

チャレンジ①
『対話』で創る
教師の『わくわく』

～ありたい先生たちの姿～

失敗を恐れずチャレンジできる！
信頼し合う先生たち
子供たちの学びを"支える"土壌

必要経費：チャレンジ①&②：約260万円

チャレンジ①：子供たちの学びを"支える"土壌づくり

ありたい子供たちの姿「学びに本気になれる個がより輝ける子供たち」を支える土壌として、
失敗を恐れずチャレンジできる！信頼し合う先生たちであり続けたい！

『対話』で創る 教師の『わくわく』

生成的『対話』がもたらすもの



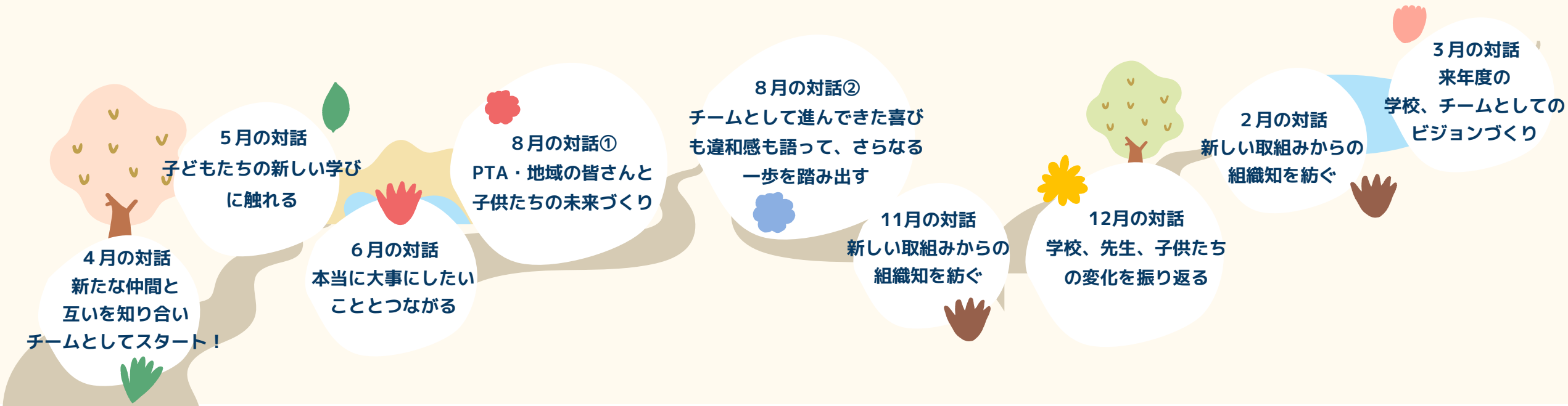
職員間が『根拠のない信頼』で結ばれ、
互いに高めあうことのできる関係が生まれる
だからこそ、安心してチャレンジできる！

美女木小で行われる新しい取組

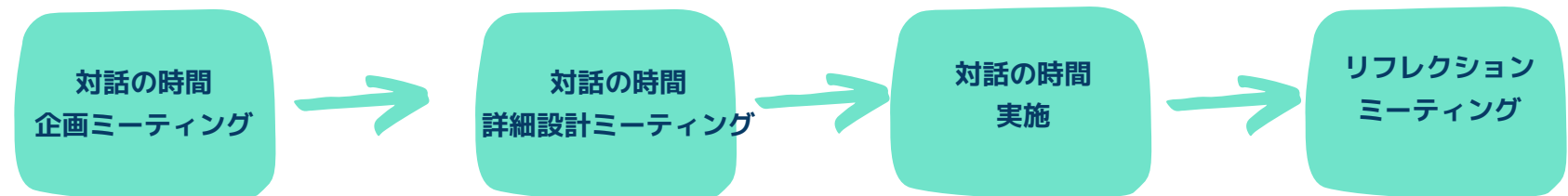
- 自由進度学習
- 哲学対話
- ゲーム・ベースド・ラーニング
- プロジェクト・ベースド・ラーニング
- Social Emotional Learning
- プロジェクト・アドベンチャー

チャレンジ①：子供たちの学びを"支える"土壌づくり

今、美女木小学校では、NPOの協力を得て対話を通じた土壌づくりにチャレンジをしています！
子どもたちへの新しい取組によって感じる嬉しいことや困っている事などをオープンに話す中で、
先生同士の信頼と安心、新たな発想が生まれ、さらなる挑戦へ向かう大事な時間です。



NPOの伴走支援を受けながら
年10回の対話の時間をつくっています。
一緒につくることで、今後も先生自身で
続けられるよう取り組んでいます。



チャレンジ②：子供たちの学びを"広げる"土壌づくり

子供たちの個性は様々で、関心を寄せるものは一人一人違います。
だからこそ、子供たちがいろいろな学びに触れ合う環境を整える。
それにより、子供が本気になることのできる学びが見つかる。

『外部人材』で創る 子供の『わくわく』

多様な学びのチャンネルを！



『外部人材』の招聘

その道のプロを定期的にお呼びし、
子供たちに多様な学びを用意する

- 茶道
- アプリづくり
- 工作・日曜大工
- 編み物
- 畑づくり
- プログラミング
- 落語 など

教職員の対話・意識改革

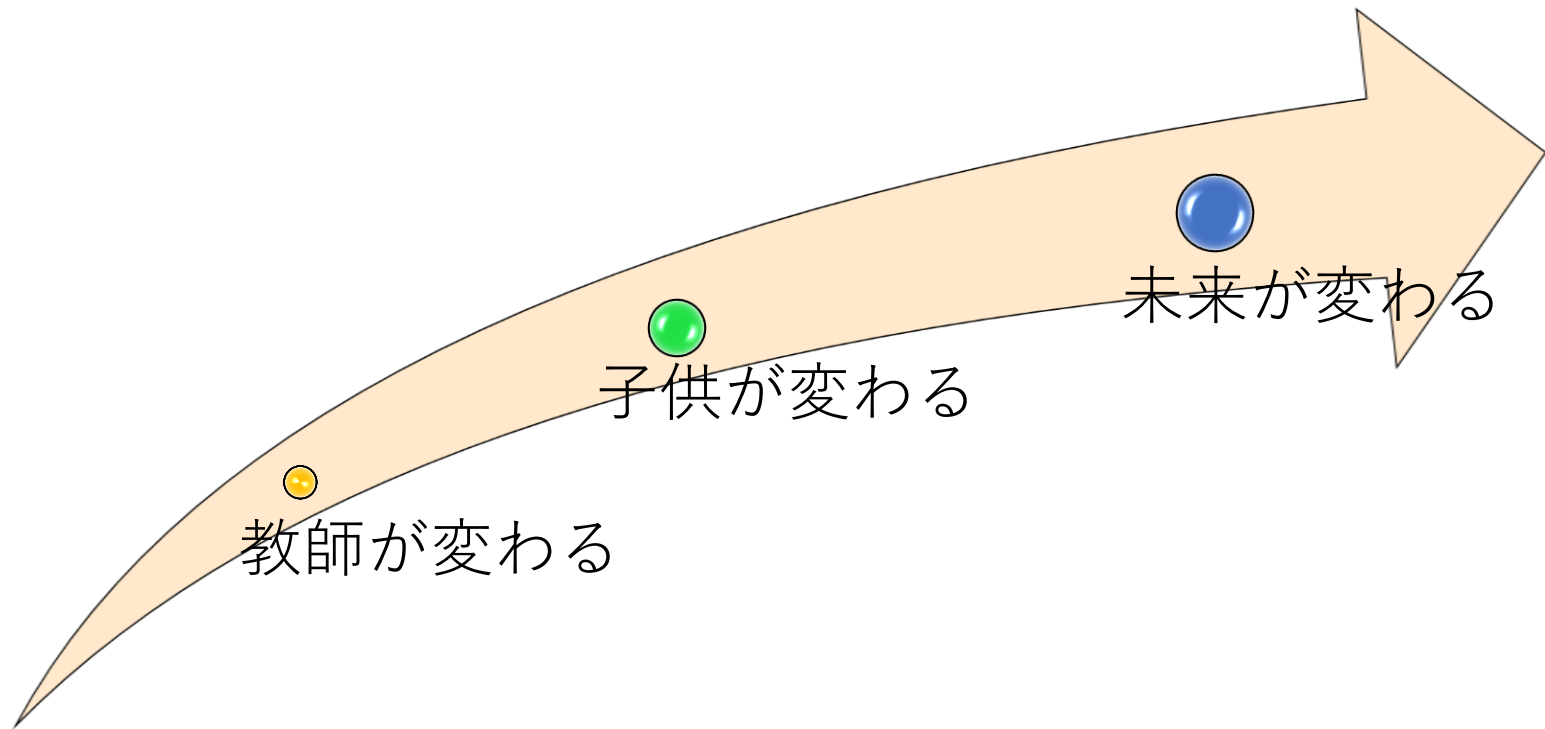
“大人”と“子供”が共に輝く学校づくり（美女木小学校）

教職員の対話や外部人材の活用により、教師と子供のワクワクを創出するプロジェクト

“創る”ために“壊す”（新曽小学校）

子供が主語になる学校づくりを目指し、教師のマインドセットに変化を促すプロジェクト

創るために壊す



戸田市立新曽小学校は、
「**夢をえがき 計画をたて 行動する 児童の育成**」
に取り組んでいます

「学校の当たり前」= 子供が主語になる学校づくりの壁

教師が教える

教師が学び方を
決める

教師が子供の学
びたいことをコ
ントロールする

教師が問いの
正解を決める

教師が子供の
時間の使い方を
決める

教師が校則を
決める

教師が主語の学校

子供は教わる

子供は教師の指
示した学び方で
学ぶ

子供は教師の敷
いたルールの上
を歩く

子供は教師の
正解を忖度する

子供は教師の
指示に従って
生活する

子供は校則に
従う

これまでの学力のイメージ【個別の知識・技能偏重】

知識の
習得

+

再生の
正確性

=

学力

何を知っているか
何ができるか
【個別の知識・技能】

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
【主体性・多様性・協働性
学びに向かう力・人間性】

知っていること・できることをどう使うか
【思考力・判断力・表現力等】

壊した壁のその先に→新曽小で創る「学校の当たり前」

新しい「当たり前」Ⅰ

【脱・正解主義】

教師の正解を探し求める学校から
子供が最適解をつくる学校へ

新しい「当たり前」Ⅱ

【脱・予定調和】

教師のルールを歩む学校から
子供の試行錯誤を尊重する学校へ

新しい「当たり前」Ⅲ

【脱・教師主導】

教師主導の学校から
子供自身が学びのハンドルを握る学校へ

人生100年時代の社会人基礎力
【3つの能力と12の能力要素】

今求められる学力のイメージ
【バランスのとれた3要素】

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか
【主体性・多様性・協働性・
学びに向かう力・人間性】

何を知っているか
何ができるか
【個別の知識・技能】

知っていること・できることを
どう使うか
【思考力・判断力・
表現力等】

前に踏み出す力

主体性

働きかけ力

実行力

考え抜く力

課題
発見力

計画力

創造力

チームで働く力

発信力

傾聴力

柔軟性

状況
把握力

規律性

ストレスコントロール力

「学校の当たり前」を壊して創る そのために！ 新曽小学校の挑戦

公立学校あるあるの2つの大きな壁

- ・「小・中・高12年間＋教師のキャリア＝高くて分厚い学校の当たり前」の壁
- ・人事異動の壁

「壊して創る」ための方策

①百聞は一見にしかず（先進校を視察）

「当たり前」から解放された子供の様子から**感じ、考え、実行する。**

②ブレない&廃れない（学校・家庭・地域で理念の共有）

学校文化の継承は学校運営協議会、**学校・家庭・地域で創る「新曽小の当たり前」。**

「壊して創る」1年目

- ・「目指す**当たり前＝子供が主語**」を共有
- ・ゴールに向けた教育課程の編成
- ・教育活動（**ルールメイキング・ブロックアワー**など）の計画・実施

「壊して創る」2年目

- ・「当たり前」継承の仕組みを構築
- ・活動内容のブラッシュアップ
- ・「新曽小当たり前」を市内学校へ発信

「壊して創る」必要経費

- ・先進的な取組の視察に係る費用
（長野県大日向小学校、熊本市、ルールメイキングに取り組む学校などを検討）
- ・教員研修、保護者対象講演、児童への指導などの講師依頼に係る費用 など

『創るために壊す』＝新しい「学校の当たり前」づくりに
みなさまのご支援をよろしくお願いいたします

動物とふれあえる夢あふれる飼育小屋をつくらうプロジェクト

(笹目東小学校)

動物とふれあうスペースを通して、自然と触れ合いたいという子供の想いを地域とともに実現するプロジェクト

自然体験を核とした学校づくり (笹目小学校)

農業や酪農を通して、子供の主体性や人間力を育む動植物とともに暮らす学校を目指すプロジェクト

戸田市未来の学び応援事業

動物とふれあえる夢あふれる
飼育小屋をつくろうプロジェクト

戸田市立笹目東小学校

○動物とふれあえる

夢あふれる飼育小屋をつくらうプロジェクト

<プロジェクト概要>

子供のおもい……

古くなった飼育小屋を動物とふれあうことのできる 夢あふれるスペースにかえたい



<プロジェクト理念>

○子供たちの思いや願を形に！

○学校・地域・家庭が手を取り合って支援を！

○笹目東小学校の自然を生かした取組に！

○動物とふれあえる

夢あふれる飼育小屋をつくらうプロジェクト

<学校の特徴を生かして>

○自然いっぱいの笹目東小

田んぼ・畑・フルーツロードの中で、動物とふれ合う体験を！

○地域や保護者とともにある笹目東小

子供たちの思いを 保護者や地域とともに実現する

笹めっ子応援団(学校運営協議会 学校応援団 PTA)

<夢あふれる飼育小屋&ふれあいスペース>

○フルーツロード内に動物ふれあいスペース(約30万円)

○動物の生活の様子が見れる飼育小屋(約200万円)

○教室でも動物とふれ合うための移動ケージ(約10万円)



子供たちの思いを 地域とともに形に ～ 夢あふれる 飼育小屋をつくるプロジェクト2023～

動物の飼育やふれ合いを通して生き物を大切にする心を育む



体験活動

動物とふれあえる夢あふれる飼育小屋をつくろうプロジェクト

(笹目東小学校)

動物とふれあうスペースを通して、自然と触れ合いたいという子供の想いを地域とともに実現するプロジェクト

自然体験を核とした学校づくり (笹目小学校)

農業や酪農を通して、子供の主体性や人間力を育む動植物とともに暮らす学校を目指すプロジェクト

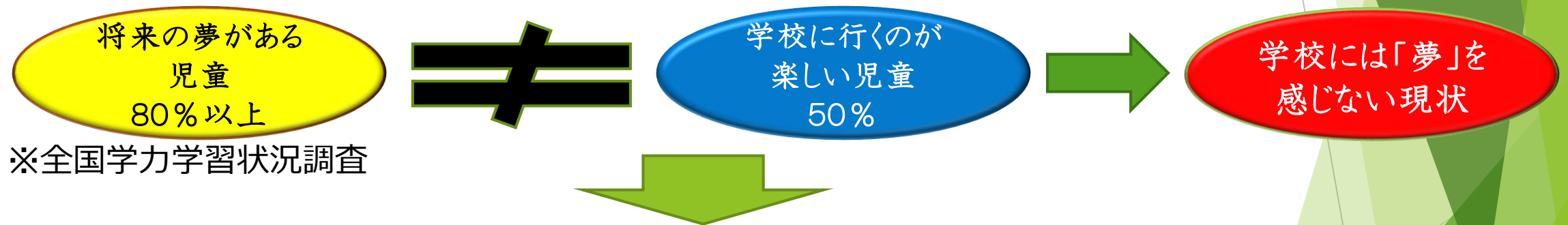
開校150周年記念 クラウドファンディング
「自然体験を核とした学校づくり」



戸田市立笹目小学校

笹目小学校の実態

- ・ 戸田市西側に位置し、荒川沿いの比較的 natura が豊かな地域である。
- ・ 子供見守り隊等、学校への地域の協力は充実している。
- ・ 明るく元気の良い子供たちが多く、素直である。
- ・ 様々な社会経済的背景を抱えた子供達が在籍している。
- ・ 児童の学力水準が国・県・市と比較して低く、従来の学力向上対策の効果が見られない。



★ → 子供を育てる学校から子供が育つ学校への転換
「自然体験活動」に特化した学校教育
～ 動植物とともに暮らす学校～

自然体験活動による期待できる効果

＜主に児童に身につけさせたい資質・能力＞

- ・「学びに向かう力・人間性」の育成
- ・主体的に学習に取り組む態度の育成

主体的に活動することを通して、**思考力・判断力・表現力**等を活用し、実社会に生きて働く**知識・技能**を育んでいく。

教科学習への派生
学力向上へのアプローチ

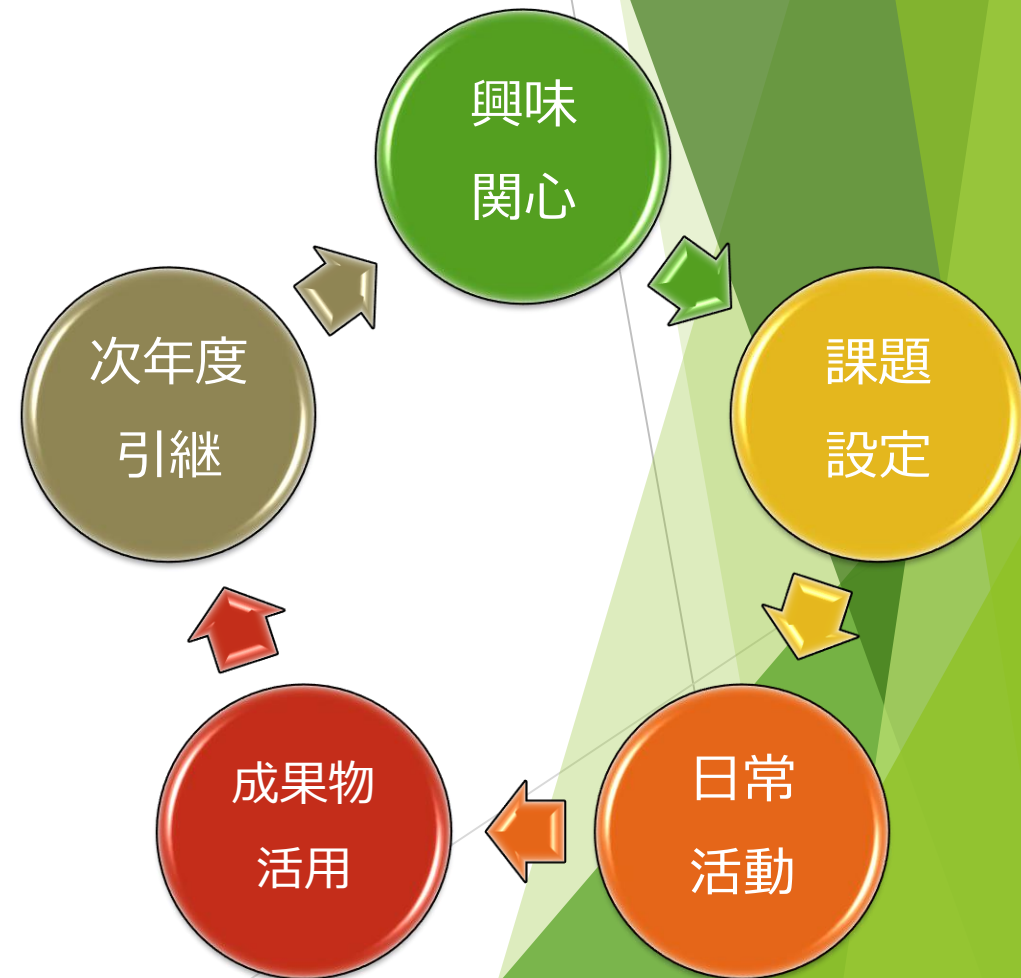
＜自然体験活動のポイント＞

- ・自然体験活動の日常化「**毎日ふれられる環境**」
- ・自然体験活動を主軸に置いたカリキュラム・マネジメント
「**点から線、面、立体へ発展**」
- ・中長期的な視点「**笹目小の新たな伝統の創出**」

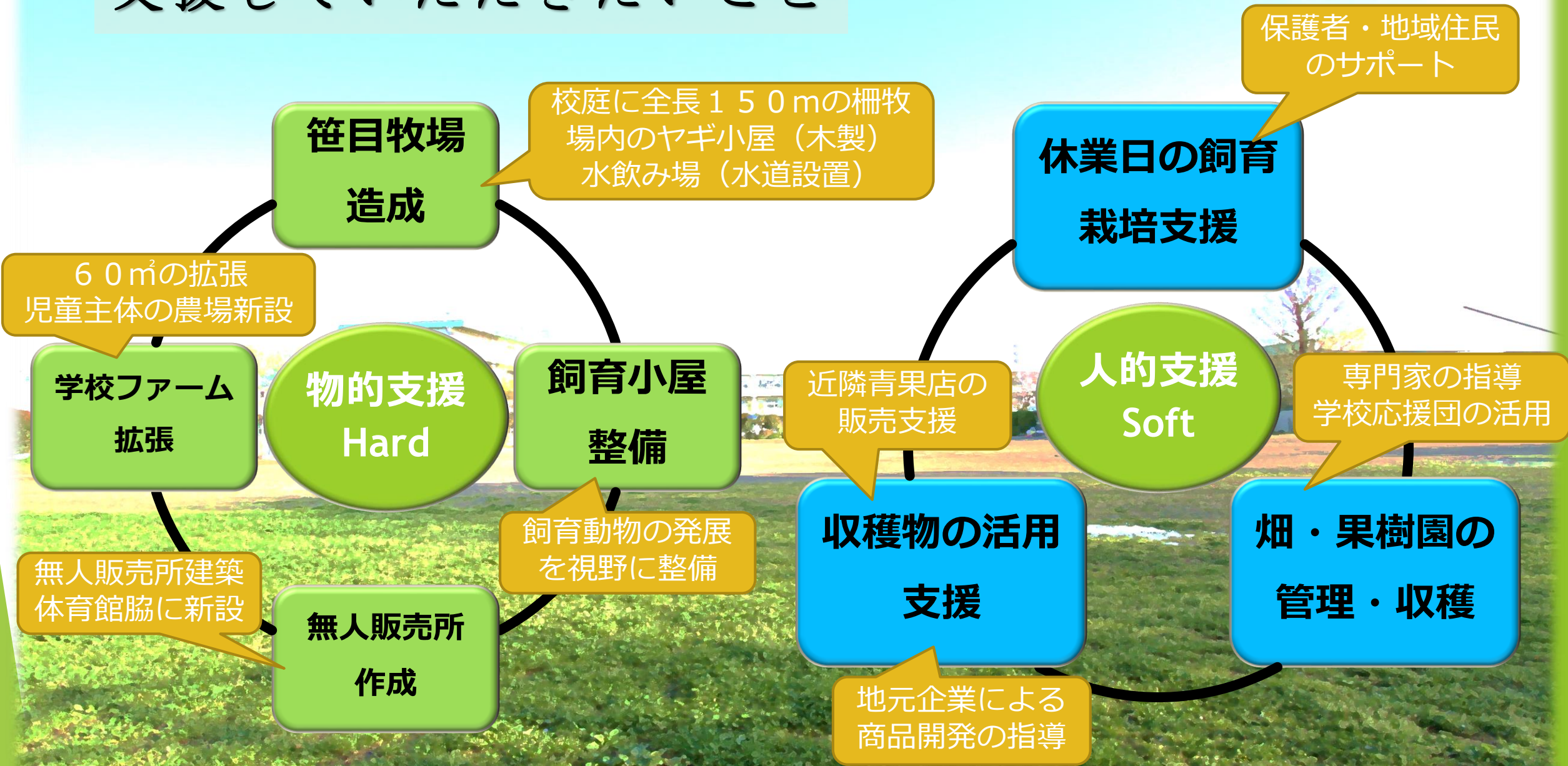
農業×酪農 学習活動の流れ

生活科・総合的な学習の時間・特別活動を中心に、全教科と関連づける

- ① 児童の興味・関心の向上
- ② 個々の課題設定（農業・酪農）
- ③ 日常的な活動（飼育・栽培）
- ④ 収穫物等の活用（製品化）
- ⑤ 販売活動の実施（販売）
- ⑥ 収益金の使い道検討（経費）
- ⑦ 次年度への引継ぎ等（持続性）



支援していただきたいこと



成果指標

《短期的な指標》（令和5年度）

指標：牧場・農場を1日1回以上活用した児童の割合

目標：90%以上

手立て：学級・学年単位の授業における計画的な活用促進
休み時間・放課後・休日の活用方法の開発・実施

《中・長期的な指標》（令和5～7年度）

指標：戸田市授業がわかる調査の授業が楽しい児童の割合

目標：全教科平均90%以上

手立て：牧場・農場を活用した学びによる学習意欲向上
教科横断的な学びによる他教科等への派生

戸二小メタバーズ美術館「T2-MUSEUM」の設立（戸田第二小学校）

メタバーズ空間で児童生徒の作品を展示し、コロナ禍で減少した相互鑑賞の機会を創出するプロジェクト

匠の技の可視化（戸田市教育委員会）

“経験”と“気合い”と“勘”のみによる指導を問い直し、データ分析により優れた教師の指導技術を可視化するプロジェクト

戸二小メタバース美術館 「T2—MUSEUM」の 設立について

課題

① コロナ禍がもたらす鑑賞する学びの減少

コロナ禍により、戸田市児童生徒作品展を含めた様々な展覧会の開催が見送られており、学校においても、人と人が対面でかかわる接触型の図工美術教育は縮小され、表現すれども、相互に鑑賞する学びが減少している状況となっている。Afterコロナにおいても、このような状況が継続されている可能性もある。

戸二小メタバース美術館は、仮想空間をつかった非接触型のものであるので、展示や鑑賞における感染リスクはない。また、アバター子供学芸員を参加させることもできるので、仮想空間での対話をとおした鑑賞も可能となり、鑑賞をとおした学びの機会の増加が見込まれる。

② 図工美術教育の進化（深化） ・ 戸田市の発展

戸田市では、昭和から図工美術教育はさかんに行われ、「図工・美術の戸田市」と言われてきた。注目を集めているSTEAM教育でARTが重要なものとして位置づけられており、その最先端を戸田市が進んでいけるようにしたいと考えている。

コンセプト

『共創』 『参加』

戸二小メタバース美術館は、「共創」「参加」をコンセプトの中心として、子供が教員や産官学民の外部人材と共創し、表現、展示、鑑賞して学ぶ、世界発の参加型子供メタバース美術館を創造していくものである。

子供たちがつくったものを、子供たち自身が展示していくART空間・戸二小メタバース美術館「T2-MUSEUM」を仮想空間につくることで、子供たち自身が自分で作品を展示し、それを友人、教員、保護者等が共有できるようにし、子供の学びを発展・拡大していくようにし、子供の資質・能力の向上を図っていく。

鑑賞をとおした学びの機会を拡大することも考えられる。例えば、常設展や企画展、また、期間を限定の展覧会も開催することができる。さらには、子供学芸員として、作者本人がアバターで参加し、その世界に入ることにより、自分の作品を鑑賞しにきた方に説明することもでき、様々な交流の場をつくれるようにしたいと考えている。

戸二小メタバーズ美術館「T2-MUSEUM」概要

○どのような当たり前を問い直すか

- ・作品の展示はこれまで教員が行ってきた。教室の展示、校内の展示、市内作品展の展示などは、教員の負担ともなっている。ここを子供たちが自分自身で学びながらメタバーズでの展示（作品を画像にする、デジタルデータでつくるなど→ T2-MUSEUM に自分で配置する→キャプションなども自分で設置）を行っていくことができるようにしていく。

○必要経費・・・メタバーズ空間の構築・利用や関係備品等に係る経費

○提案に当たっての留意事項要件について

- ①教科等横断的な学び「STEAM」に該当する「脱・正解主義」である。
- ②メタバーズについては知見がないので、産官学の協力も得ながら、進めていき、社会に開かれた教育課程の実現をする「脱・自前主義」である。
- ③創造していく部分が多分にある「脱・予定調和」である。
- ④教師主導ではなく、空間に自分（たち）の作品を自分（たち）で展示する「脱・教師主導」である。
- ⑤初の試みであるので、教師の経験、勘、気合いは通用しない「脱・3K」である。

デジタル技術の活用

戸二小メタバース美術館「T2-MUSEUM」の設立（戸田第二小学校）

メタバース空間で児童生徒の作品を展示し、コロナ禍で減少した相互鑑賞の機会を創出するプロジェクト

匠の技の可視化（戸田市教育委員会）

“経験”と“気合い”と“勘”のみによる指導を問い直し、データ分析により優れた教師の指導技術を可視化するプロジェクト

匠の技の可視化について



匠の技の可視化について

現状と課題



業務量の増大により教職員の研修時間の確保が困難であること、大量採用・大量退職などに直面している現状において、**教職員の指導力向上は喫緊の課題**

優れた教職員の指導技術 **“匠の技”** は、その教師の経験や感覚に基づく属人的なスキルになりやすく、**伝承や普及が困難**



解決の方向性

脱・経験と勘と気合

優れた教職員の技術を**可視化**、**定量化**し、**調査・分析・研究**

他の教職員へ効果的な伝承



こどもたちの学びの質の向上



これまでの実証研究

2021年度、市内5校において、ハイラブル(社)のたまご型レーダーを活用し、授業中の**“こどもたちの発話”**と**“教師の指導”**との関係进行分析した結果、多くのグループで教師が支援に入った後にこどもたちの発話量が増える傾向にあることがデータから分かった。

～ハイラブルのたまご形レコーダーとは？～

①話し合いの可視化

- ・会話のやりとり（誰とどの程度のやりとりか）
- ・発話量と時間変化

②データ分析

- ・話し合いの様子をグラフ化
- ・グループ分析（メンバーごとの話し合いの傾向等）
- ・個人分析（発話の質的向上、メタ認知の育成）

【発話のパターンから行動解釈が可能】

例) 発話量が少ない割に重なり量が多い
⇒相づちで他者の発話をサポートしているのか。

例) 発話量が多く重なり量が多い
⇒よく話し、よく割り込む主体的な学習者なのか。



実証研究の振り返り

成果

以下のような事例が見られた。

子供たちが、**自らの発話を振り返り**、次の活動に向けて**自分の目標を見つける**ことができる。

教師にとっては、録音を聞き返すことで、**こどもたちの評価につなげる**ことができる。

課題

座席位置を適切に設定しておかないと、発話量のデータを正確に記録できず、**データの正確性に疑問が残る場合**があった。

こどもたちが**自由に動き回る授業では活用が難しかった**。

教師の発話記録の取得は困難だった。



匠の技の可視化の更なる推進に向けて

- R4.10月～ R5.3月 未来の学びの実現に向けてクラウドファンディングを実施
- R5.7月～ 以下の観点から、授業中における”こどもたちの発話”と”教師の指導”との関係をより深く詳細に分析
 - 可視化・定量化
 - データ分析
- R6.4月～ 成果まとめ
子どもの学びに影響を与える優れた教師の”技”を解明

目標額：約500万円

データ収集等に係る機材調達費
データ分析等に係る経費など

①発話量（発話時間）と学びとの関係の分析

例) 児童生徒の発話量が多いほど（発話時間が長いほど）、学力や非認知的（社会情緒的）スキルによい影響があるのではないか。

②児童生徒の話合いと教師の指導との関係の分析

例) 児童生徒の話合いが活発化した場合、教師の声かけ等がきっかけとなっている場合があるのではないか。

例) 児童生徒の話合いの活発さは、教師の学級経営の在り方を示す県学調の質問紙項目との相関関係が見られるのではないか。

部活動改革

Toda T・F・Cで戸田市の小中学生に陸上競技の楽しさを

市内全中学校で一緒に活動できる団体を組織し、部活動の当たり前を問い直すプロジェクト

Toda T・F・Cで

戸田市の小中学生に陸上競技の楽しさを！

T・F・C = Track & Field Club

部活動の当たり前を問い直す

市内全校（できれば小学生（欲張るなら地域）も）と一緒に活動
部活動における、産官学の連携を

活動方針 「走る・跳ぶ・投げる を楽しもう!!」

速くなりたい 高く跳びたい 遠くに投げたい と思う中（小）学生募集

- ・（児童）生徒の活動『楽しむ』場所を確保しよう
- ・運動部活動の地域移行のさきがけになろう
- （・教員の働き方改革の一助にしよう）

Toda T・F・Cの活動

対 象	市内小・中学生 ※大人も考慮
活 動 日	毎週土曜日 午前9時から12時
活動場所	戸田市スポーツセンター 市内（小）中学校グラウンド
指 導 者	戸田市内総合型地域スポーツクラブ指導員 市内（小）中学校教員のうち希望するもの
費 用	寄付額に応じて検討

設立に向けての課題

○準備委員会設置

- ・ 総合型地域スポーツクラブ
- ・ 市内中学校陸上部
- ・ 児童や教員等への周知

○運営母体の設立

- ・ 規約等の立案
- ・ クラブマネージャーの募集

○運営開始に向けて

- ・ 指導者の募集（兼職兼業の許可を含む）
- ・ 活動場所の確保
- ・ 会費の管理

このクラウドファンディングを、TodaTFCの開設に向けての資金とさせて頂きたいと考えます。ご検討、よろしく申し上げます。

未来の学び応援プロジェクトの詳細はこちら！

▶ 戸田市クラウドファンディング専用ページ

★PR動画や各提案の詳細資料もご覧いただけます！

▼こちらから



学校発の提案を、
応援しませんか？

戸田市未来の学び応援基金

▶ 戸田市教育委員会公式 note

★今回の募集にかける思いや応援メッセージを掲載しています！



戸田市教育委員会note

戸田市教育委員会が運営する公式noteです。全国でも先進的な本市の教育改革への挑戦をより多くの方に知っていただき、こども達の未来の学びの実現に向けた取組を一層前に進めていきたいと考えています。産官学との連携、不登校対策、ICT、PBLなどのテーマについてお届けします。



▼こちらから

